出典：『尾張名所図会　前編　巻之二』

江戸時代の
尾張の人物を調べる

江戸時代の尾張の人物を調べる資料には、活字化されている資料（活字翻刻資料）とそうでない資料（いわゆる「くずし字」で書かれた資料と、それらの資料を写真撮影して製版・印刷した影印資料）があります。ここでは、鶴舞中央図書館所蔵の活字化されている資料を中心にご紹介します。

1. はじめに　2. 事典・人物誌　3. 武士を調べる　4. 町人を調べる　5. 特定分野の人物を調べる

📖：図書　💻：CD-ROM　🌐：インターネット

1.　はじめに

名古屋市図書館資料検索（名古屋市図書館 OPAC）で人物名を入力して適当な資料が見つからない場合は、まず、『名古屋市史』・『名古屋叢書』などの索引を調べてみます。『名古屋市史　人物編』には各人物の記述の末尾に参考文献があげられていますので、それらの文献も調べてみます。ただし、活字翻刻されていない文献や所在がわからない文献も含まれています。

📖『名古屋市史　人物編　第 1』　名古屋市役所／編纂　川瀬書店　1934 年（復刻版あり）
📖『名古屋市史　人物編　第 2』　名古屋市役所／編纂　川瀬書店　1934 年（復刻版あり）
📖『名古屋市史　索引』　名古屋市役所／編　名古屋市　1916 年（復刻版あり）
📖『名古屋叢書　別巻 2 』　名古屋市蓬左文庫／編　名古屋市教育委員会　1978 年
📖『名古屋叢書続編　［第 21 巻］』　名古屋市教育委員会／編　愛知県郷土資料刊行会　1984 年
📖『名古屋叢書三篇　総目録・索引』　名古屋市蓬左文庫／編　名古屋市教育委員会　1990 年

2．　事典・人物誌

📖『名古屋人物史料　人名索引』　［日比野進（製作）］　1996 年

名古屋市史資料の一つである『名古屋人物史料』（名古屋市史編纂室が名古屋の人物に関わる各地の文書を書き写した史料集）の収録人物名を五十音順に排列した索引です。『名古屋人物史料』については活字化されていませんが、影印本（『名古屋市史資料影印叢書』）をご用意しています。

📖『明治の名古屋人』　名古屋市教育委員会／編　名古屋市教育委員会　1969 年

明治 100 年を記念して、幕末から明治時代に名古屋の発展、日本興隆に大きな影響を与えた人物の伝記がまとめられています。一部ですが肖像写真があります。

📖『尾張の殿様物語』　徳川美術館／編　徳川美術館　2007年

「尾張徳川家のあゆみ」として歴代の尾張藩主の基本的な情報や事績がまとめられています。また、資料編の中に「尾張徳川家歴代・正室・側室・子女一覧」があります。

📖『三百藩家臣人名事典　第 4 巻』　新人物往来社　1988 年

📖『愛知百科事典』　中日新聞社／編　中日新聞本社　1976 年

五十音索引のほか、分野別索引の中に近世までの人物の索引があります。

📖『角川日本姓氏歴史人物大辞典 23　愛知県』　角川書店　1991 年

「愛知県の人物」ほか、市区町村別の歴史と人物や愛知県の姓氏についての解説があります。

📖『新編愛知県偉人伝』　愛知県教育会　愛知県郷土資料刊行会　1972 年

昭和 9 年刊の復刻版。物故者で愛知県出身の有名人及び愛知県に顕著な事跡を残した人物の伝記が採録されています。人名索引や出生郡市別の索引のほか、「尾張三河より出でたる諸大名表」などがあります。

📖『東海の先賢群像』　岩田隆／著　桜楓社　1986 年

📖『東海の先賢群像　続編』　岩田隆／著　桜楓社　1987 年

愛知・岐阜・三重の主に近世の文人について見開き 2 ページで随筆風に紹介しています。すべてではありませんが、肖像画があります。

3.　武士を調べる

尾張藩士を調べるための基本資料としては、系図（「士林泝洄」など）、勤め書（「藩士名寄」など）、名簿（「分限帳」など）の 3 種類があります。また、名古屋城下の古地図の中には、居住していた武士の名前が記載されているものがあります。

3-1.　系図

📖「士林泝洄」（『名古屋叢書続編　17-20』所収）

📖「続士林泝洄」（『名古屋叢書三篇　4』所収）

ともに江戸時代中期の系図集で、活字化されています。索引により名前から調べることができます。「士林泝洄」には家紋の図が、「続士林泝洄」には家紋の名称があります。

📖『名古屋市史資料影印叢書　尾州諸家系図集』　名古屋市鶴舞中央図書館　1992 年

尾州諸家の系図について各地の文書を書き写した史料集（名古屋市史資料）の影印本です。

📖『尾張群書系図部集　上・下』　加藤国光／編　続群書類従完成会　1997 年

尾張国の旧家に所蔵されている系図を主として編纂し活字化したものです。名字の五十音順に並んでいます。編集にあたっては、旧家所蔵の系図のほか、「士林泝洄」や『続群書類従』・『寛政重修諸家譜』・『尊卑分脈』・『張州雑誌』所収の系図、『姓氏家系辞書』・『姓氏家系大辞典』が使用されています。

3-2.　勤め書

📖『【稿本】藩士名寄』　名古屋市蓬左文庫／編　名古屋市蓬左文庫　1994 年-1999 年

江戸時代後期の系譜集です。名古屋市蓬左文庫に所蔵されている「稿本藩士名寄」を活字翻刻した資料で、名字から引ける索引があります。

「藩士名寄」（徳川林政史研究所の HP 中の公開史料一覧）http://rinseishi.tokugawa.or.jp/shiryokoukai/

上記の異本で蓬左本にない系譜も含まれています。PDF ファイルにより公開されています。

！ 蓬左文庫所蔵の「藩士名寄」について

「藩士名寄」の構成やその活字化の経緯については、松村冬樹著の「尾張藩「藩士名寄」のデータベース化」(『名古屋市博物館研究紀要　第 26』所収）が参考になります。同論文によると、蓬左文庫所蔵本は藩士 133 冊、職人 4 冊、神主・寺院・女中各 1 冊で、総数 140 冊からなります。このうち、藩士と職人を活字翻刻したものが、鶴舞中央図書館で閲覧できます。

！ 尾張藩役職者一覧

概ね元和 3 年（1617）から明治 4 年（廃藩置県）までの奉行などの尾張藩の役職者の一覧が📖『尾張史料のおもしろさ原典を調べる』(名古屋市博物館／編　名古屋市博物館　2004 年）にあります。この一覧は「藩士名寄」（蓬左本）を基とし、一部『士林泝洄』の記述を追記して作成されています。

3-3.　名簿

📖『新修名古屋市史　資料編近世１』　新修名古屋市史資料編編集委員会／編　2007 年

「寛永年中分限帳」、「分限帳　元禄之末、宝永正徳、享保頃迄」、「尾藩分限帳　明治二年訂正」が活字翻刻されています。巻末には「分限帳　藩士索引」があります。

📖「尾張藩士録」　ブックショップ「マイタウン」　1998 年

名古屋市史資料の「家中いろは寄」（嘉永 5 年）の影印本で、家紋の図もあります。影印本ですが文字は比較的読みやすく、「いろは順」に編成されているため判読は容易です。

！ 分限帳とは

分限帳とは大名の家臣の名前・禄高・地位・役職などを記した帳面です。鶴舞中央図書館には尾張地方に関係の深い分限帳があります（⇒　鶴舞中央図書館で閲覧できる尾張藩関係の分限帳）。しかし、活字翻刻されたもの以外は、判読は容易ではありません。

3-4.　地図

鶴舞中央図書館では、名古屋城下の古地図も所蔵しています。その多くは明治から大正にかけて筆写されたものや、昭和に入って復刻された資料です。そのうち 30 種類ほどの地図には居住していた武士の名前があります（⇒　鶴舞中央図書館所蔵の名古屋城下図一覧［武士名記載分］）が、活字翻刻されたもの以外の判読は容易ではありません。なお、下記のデジタル化されたものについては、人名で検索することができます。

💻「名古屋城下デジタル復元地図」　名古屋城下町実行委員会　2007 年

弘化 4（1847）年と明治 3（1870）年の地図から名古屋城下の居住者（武士）を探したり、人名（名字や名前だけでも可）・寺院名で検索することもできます。また、これらの地図を現代の地図と重ね合わせて表示することもできます。

なお、後述の『名古屋城下町復元プロジェクト報告書』とセットで刊行されたもので、同書では弘化 4 年と明治 3 年のデジタル復元地図が見開きで比較できるようになっています。

💻「城下町名古屋デジタルマップ 2007」　名古屋市博物館／編・製作　2007 年

「名古屋城下デジタル復元地図」をもとに作られたもので、新たに文政 7（1824）年の地図が加えら

れています。人名を検索すると『藩士名寄』を元にした履歴がわかるようになっています。

4.　町人を調べる

📖『名古屋城下町復元プロジェクト報告書』　名古屋城下町調査実行委員会　2007 年

江戸時代の資料に現れる名古屋城下在住の町人について町名の五十音順に並べた「城下町町人一覧」があります。参照資料は①「寛延旧家集」・②「那古屋府城志」・③「金鯱九十九之塵」（以上は『名古屋叢書』所収）、④「明和安永頃御用達名前帳」・⑤「尾州濃州紺屋惣帳」・⑥「銭商売売人別帳」・⑦「御用達名前帳」（以上は『名古屋商家集』所収）、⑧『中京俳人考』、⑨『中京書画家人考』、⑩「尾州書林書肆別出版書目集覧」（『名古屋市博物館研究紀要　第 5・6 巻』所収）、⑪『連城亭随筆』、⑫『名越各業独案内』です。

📖『特別展大にぎわい城下町名古屋』　特別展「大にぎわい城下町名古屋」実行委員会　2007 年

江戸時代の資料に現れる名古屋城下在住のおもな町人を屋号の五十音順に並べた「城下町の町人」があります。参照資料は①「寛延旧家集」・②「那古屋府城志」・③「金鯱九十九之塵」（以上は『名古屋叢書』所収）、④「明和安永頃御用達名前帳」・⑦「御用達名前帳」（以上は『名古屋商家集』所収）、⑪『連城亭随筆』、⑫『名越各業独案内』です。

5.　特定分野の人物を調べる

5-1.　書肆（書店）・藏版者・彫工

📖『尾張出版文化史』　太田正弘／著　六甲出版　1995 年

書肆（書店）や彫工（版木を彫刻する彫師）など、尾張の出版関係者についてまとめられています。「尾張書肆聚覧」や「尾張藏版者聚覧」、索引があります。

5-2.　本草家・医家・洋学者

📖『医学・洋学・本草学者の研究』　吉川芳秋／著　八坂書房　1993 年

著者の単行刊行書などから医学・洋学・本草学者に関する伝記をまとめたものです。人名索引があります。

📖『金鯱叢書　第２７～２９輯』　徳川黎明会　2000-2002 年

「尾張藩「御医師」の基礎的研究」（岩下哲典／著）があります。徳川林政史研究所所蔵の「高附」（寛永期から天保期までの尾張藩の「御医師」の出自などの履歴を収録したもの）記載の「御医師」347 人の前職・出自・役職・家禄・在職年数等がまとめられているほか、徳川林政史研究所所蔵の「支配役寄」を元に作成された「尾張藩金瘡御医師および同並（1648-1834）」（32 人）および「尾張藩扶持人のうち医師（1784-1832）」（12 人）についても同様にまとめられています。

📖『金鯱叢書　第３０～３２輯』　徳川黎明会　2003-2005 年

「尾張藩「御医師」の幕末維新」（岩下哲典／著）があります。「藩士名寄」（徳川林政史研究所所蔵本および蓬左文庫所蔵本）から抽出した尾張藩医 95 家の状況（就職年・退職年・出自・関係・事項）についてまとめられています。

📖『名古屋市史資料影印叢書　第 47・48 巻』　［名古屋市鶴舞中央図書館（製作）］　1997 年

蘭方医野村立栄（初代・二代）による名古屋の藩医・町医の人名録である「名古屋医家姓名録」、「寛政文化医家姓名録」、「文化癸酉医家姓名録」、「文化戊寅医家姓名録」、「文政甲申医家姓名録」、「医家姓

名録天保五年」、「慶応元治医家姓名録」（名古屋市史資料）の影印本です。

📖『尾張藩社会の文化・情報・学問』　岸野俊彦／著　清文堂出版　2002 年　［A 24］

抄録ですが「天保五年医家姓名録」の翻刻や、上記の野村立栄の諸記録についての解説があります。

！　尾張藩の医師制度

藩医および町医を含む尾張藩の医師制度の体系については、『徳川林政史研究所研究紀要　第 39 号』p.142 の「尾張藩の医師制度」の表（『尾張藩社会の文化・情報・学問』をもとに作成）が参考になります。

5-3.　商人

📖『名古屋商人史』　林董一／著　中部経済新聞社　1966 年

📖『近世名古屋商人の研究』　林董一／著　名古屋大学出版会　1994 年

『名古屋商人史』、『近世名古屋商人の研究』ともに巻末に人名索引がついています。また、『名古屋商人史』には、名前・居住地・職業等を一覧にした表が資料別に何種類かあります。この表に書かれた人名は索引からはひけません。

5-4.　書家・画家・文人

📖『尾張著述家綜覧　補訂版』　太田正弘／編輯　太田正弘　2005 年

著述のある江戸時代以前の「尾張人」の全てを集成しようとしたものです。略伝と著述、人によっては逸事を掲げたものです。号より引ける索引があります。

📖『愛知書家画家事典』　服部徳次郎／著　愛知県郷土資料刊行会　1982 年

収録範囲は物故者ですが、発行当時に活躍していた書家・画家の団体名簿が掲載されています。号より引ける索引があります。

📖『愛知画家名鑑』　服部徳次郎編／著　愛知画家顕頌会　1997 年

愛知県に生まれた画家、愛知県に関係のある画家のうち、物故者及び概ね 70 歳以上で活躍中の人物が収録されています。号より引ける索引があります。

📖『中京俳人考説』　市橋鐸・服部徳次郎／著　名古屋市教育委員会　1977 年

尾張で生まれ、あるいは名古屋の文化に関係ある俳人で発行当時の物故者が収録されています。

5-5.　刀工

📖『尾張刀工譜』　岩田與／著　名古屋市教育委員会　1984 年

刀工銘より引ける索引があります。

5-6.　茶人

📖『名古屋の茶人大成』　日比野猛／著　日比野猛　1997 年

「藩士名寄」や「分限帳」などの史料から尾張藩の歴代御茶道関係者をまとめた「尾張藩御茶道関係者名簿」（年表・略歴）や、「尾張の茶人大成」（五十音名簿）、「茶人金石文集」などがあります。

5-7.　その他

📖『尾張藩在郷名家録』　ブックショップマイタウン　2006 年

安政 4 年（1857）及び安政 5 年（1858）の在村有力者名簿の影印本です。名字・帯刀・御目見などの待遇が書かれています。

📖『新修名古屋市史　資料編近世１』　新修名古屋市史資料編編集委員会／編　2007 年

「安政 5 年 11 月　尾張藩領の苗字帯刀等拝領者名簿」の活字翻刻があります。

作成：名古屋市図書館（2025 年 3 月改訂）